

山寺ふるさと便り =第20号=

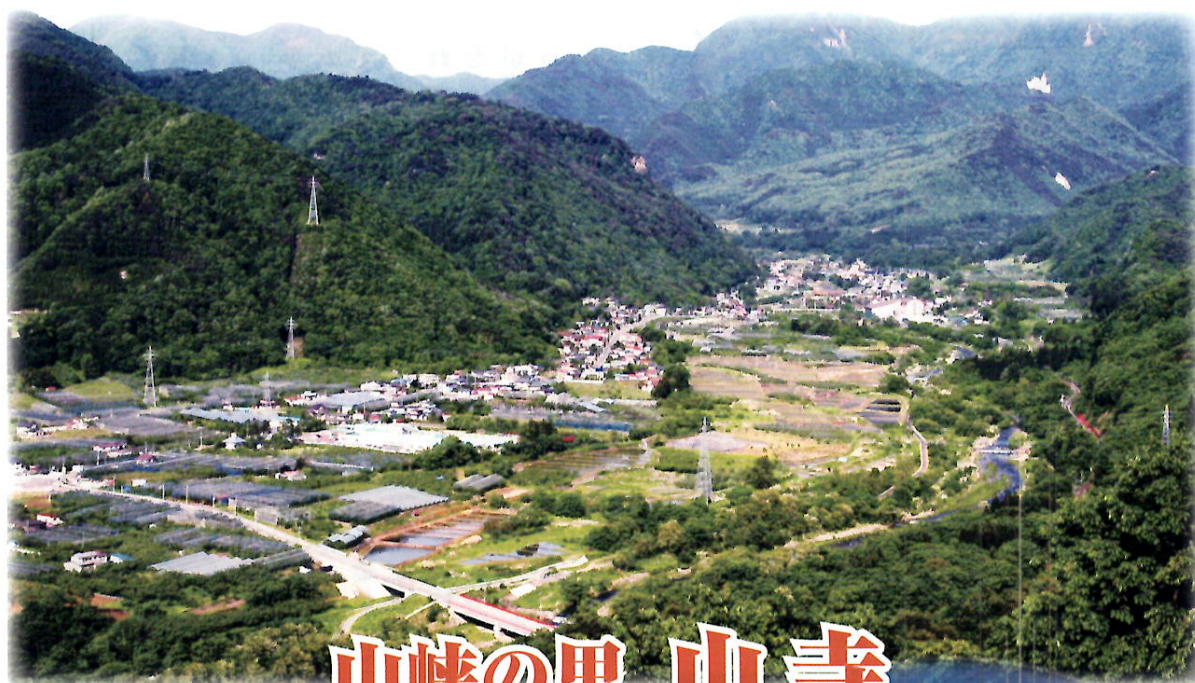
宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会





縁

後藤 仁田氏
(題字揮毫)

縁の方の来訪など、他の地区には見られない自慢である。

早、二十号になるという。驚きである。思えば公民館での書道クラブが縁で、南院にあった時から始まり書道を通して足を運ぶ機会があった。

その頃『宝珠のしずく』が発刊されることとなり、題字を書くよう仰せつかった。地区の皆様の誰もが好む書体とはいかないまでも、親しみやすく書いたつもりである。

山寺の一年間の変化と、行事や有



宝珠のしずく 発刊おめでとう

樋口 孝司氏

(宝珠のしずく発刊に協力)

を思い出します。

『宝珠のしずく』第20号発刊の記念に私の事を取り上げていただき、大変光栄に思っています。

当時、私は市の広報課で、「広報やまがた」を編集していました。その時、伊澤公民館長からアドバイスをいただけないかと依頼がありました。生いにも「見てもらうためには、お知らせや行事だけではだめで、発行者が独自で取材し、地区民を載せなければならぬ」なんて言ったの

その後私は、平成14年から23年まで毎年、市長代理として山寺の新春の集いに出席させていただきました。私の勤めはまさに、山寺地区から始まっていたのです。地域の様々な行事等で、多くの人々とかかわり成長させていただきました。今後山寺のますますの発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。



回顧

今野 和子氏
(元山寺村役場勤務)

国土爆撃が激しくなった昭和20年3月。私達一家は東京から父の故郷である山寺に疎開しました。そして終戦後の昭和22年3月に山形第一高女を卒業しましたが、戦後の動乱で東京へは戻れず、気持ちは塞ぎました。その頃、山寺村役場で農地改革の仕事をする事になり、千手院から川原町にあった茅葺き屋根の役場庁舎に通いました。

初めの頃は30坪が一畝となる土地換算も分らず、全てが一から始まりましたが、まわりの人達から教えられ育てられた事を忘れることができません。私の人生の原点でした。昭和31年6月、山寺村の分村合併後、山形市役所に移り勤め続けました。今年戦後70年、生活の厳しさはありましたが平和でした。今、改めて戦争は二度とあってはならないと言いたいと思っています。



山寺は心の故郷

伊藤 正明氏

(元山寺小中学校長)

思えば私の赴任した夏、台風で山寺は大きな被害を受け、二口峠が不通になるなど、仙台への道が塞がれ観光にも大きな打撃を受けました。

学校は、地域やPTAの方々との交流が大切と考え、日枝神社祭典日を学校の休日に行ったり、文化祭を学校と地域との合同祭にするなど、山寺の地域への想いは尽きず、今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。

一昨年、根本中堂本尊薬師如来の特別御開帳の時、磐司祭で獅子踊りを拝見し、感激して参りました。今年もテレビに映し出される微笑ましく豊かな笑顔での観光ボランティアガイドの活動。地域の芸能保存会の布施与惣治さんの指導で実践した磐司太鼓。力強く活動している中学生の自信に満ち溢れた姿に感動。地域の方々的心情に触れ、とても懐かしく嬉しく感じております。



「やまての道」の学習で、先生からのクイズに答えるのが楽しい。

A ・いろいろな資料から情報を集める。
・インターネットから拾う。

Q 山寺のことを学校ではどのように勉強していますか？ またPR方法は？
・秋の二口峠の紅葉がすごい。
・千手院のお観音様と垂水不動が自慢である。パワースポット。
・山寺のことを学校ではどのように勉強していますか？ またPR方法は？

A ・自然が豊かである。
・四季の変化に富んでいる。
・景色がきれいだ。特に五大堂からの眺めが素晴らしい。
・アイスヒルから見た山寺の全景がおすすすめ。

Q 地区外の人や観光客に山寺はどんなところと聞かれたら？
・自然が豊かである。
・四季の変化に富んでいる。
・景色がきれいだ。特に五大堂からの眺めが素晴らしい。
・アイスヒルから見た山寺の全景がおすすすめ。

次代の「山寺づくり」を担う山寺小中学校の子どもたちの代表者に集まってもらい「司会・新聞孝夫」
*「山寺のよさは？」
*「どんな山寺になって欲しい？」
を語ってもらった。
さすが、郷土学習で「山寺」を学んでいるという見方・考え方を聞くことができた。

未来の山寺に向けて 山寺の良さを発信!!



Q 観光ボランティアガイドで工夫していることは？
A ・根本中堂・姥堂・せみ塚・



一年生から五年生の班で歩きながら勉強するが、まだまだ分からない

・修学旅行で浅草・日光で山寺の

Q 山寺は年々人口が減っている、子どもも減っている。どんな方法をとればよいと思いますか？
A ・山寺は小・中学校が一緒であることの良い所をもっとPRして入学者を増やしてほしい。



Q 山寺のことで困ったと思うことは？
A ・児童・生徒の数が少ないので、学校でもすることがたくさんある。

・英語でのガイドの際は、英語と日本語でカードを作り、事前にグループで練習する。
・恥ずかしいけれど、観光客の方々に喜んでもらえるのでとてもやりがいがある。



いかがでしょう。
子どもたちが想い描く「誇れる山寺」の姿、的を射て、頼もしい。
山寺を愛する子どもたちに期待が膨らむ集いであった。ありがとう!!

・山寺は子どもが少ないので、移住者がこれるようにイベント等を実施する。
・人口が減っているのを、空き地に団地やアパートを作る。景観はそのまま。
Q 元気な山寺を創るために日頃から考えていることを話して下さい。
A ・テレビや雑誌を見て山寺に来る人が多い。宣伝する機会をもっと増やす。
・山寺の良さを地区民全体で理解することが大切。地域の方から直接学べる機会をつくれれば詳しく山寺を知ることが出来る。
・山寺物語を根本中堂の前で行えば、観光客に山寺の歴史を詳しくPRできる。
・磐司祭で行っている獅子踊りを場所を変えて回数を多く演じてもらったらどうか。
・宝珠橋公園の遊具を増やせば、大人だけでなく子どもも楽しめる山寺になるのでは。
・インターネット等で紅葉の様子とかをリアルタイムでPRする。
・ゆるキャラを作る。

山寺は、今年、明治元年から数えて148年をむかえた。150年に届く「山寺づくり」の歩み（歴史）を振り返って、これからの「山寺づくり」を考えてみたい。

☆ 山寺は、明治期、二つの経済基盤を失った。

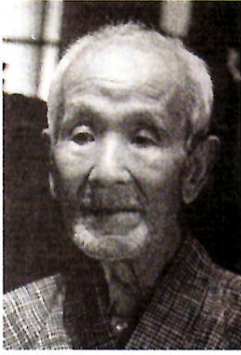
明治4年、立石寺へ、明治政府から寺領返還命令（土地）が出された。年貢が激減、境内の8院が廃寺になり、11坊が帰農した。

さらに、二口峠の交易量が激減。山寺の経済は苦境に陥り、村民の生活は著しく窮乏し、多くの離村者を生む事態となった。

また、山寺で固く厳しく戒められてきた殺生禁断、採石禁止すらもが揺らいだ。

＊「明治38年2月5日、不景気甚だし。一汁にて食し、又は一汁一菜のみにて食す。また煙草は高値となり止めし者多しと。今は食物を節する外はなしと哀れる事なり」

（伊澤栄次氏日記）



伊澤 栄次氏

明治政府の「土地、交通アクセス整備、社会慣習」等々、矢継ぎ早の政策で、我が山寺も大混乱に陥った。しかし、山寺の先人方は、「新た



みぶほうでん 王生芳田住職

＊行啓に関する整備のすべてを26日間で整備し、宝珠山立石寺境内に行啓記念殿（行在所）を建設。

立石寺山内境内の石段整備は突貫工事では現在の姿に整えた。難航していた山形山寺間の県道格上げはあつさり実現。山寺地内の道路整備も急ピッチで進んだ。

＊行啓当日、東宮嘉仁親王殿下は、観明院前の石段をお下がりの際、御案内役の馬淵県知事に「もう一度来よう」と仰せられたという。このお言葉が、その後の「山寺づくり」へ最大の力添えになった。

＊行啓記念殿（行在所）は、行啓翌日から10月3日まで2週間公開され、前代未聞の関心を集めた。蟻行列のように県内外から、数万の参詣者でにぎわったと記録されている。公開後も、山寺は連日のようににぎわったという。

山寺の歴史

合わせ 未来に誇れる まちづくり

＊行啓記念殿（行在所）は山寺のシンボルとして、宝珠山立石寺境内のビュポイントになっている。

＊伊澤栄次氏は、行啓報告書に、「東宮嘉仁親王行啓誘致願・実現は、宝珠山立石寺は勿論、山形県、東村山郡、山寺（村）が、この事実は子々孫々に伝えるべき極めて重大な出来事である」と記している。

☆ 仙山線開通は、行啓がもたらした最も幸運なインフラ整備であった。

＊明治38年、村形忠三郎氏と伊澤栄次氏が、山形山寺間横断鉄道の件を宝珠山立石寺で話合う。行啓後、仙山線敷設構想は急ピッチで検討が進む。

＊仙山線の敷設ルート決定は、当時の米沢選出国會議員戸狩権之助氏の尽力に負うところが大きい。



戸狩氏供養塔

氏の遺言「仙山線を見える処に供養碑を」で、供養塔は立石寺宝物館裏に立つ。

（大正13年建立）

道路を作って寄附するとの事。決定を見るに立ち至りたるは布施喜左衛門、柏倉茂平治、山田勘助、伊澤甫、瀧口清三郎等の同意で芦沢から人夫を出す。

10月12日 停車場道路大体出き上がる」（伊澤日記）

☆ 昭和7年3月25日、山寺が「名勝及史跡」に指定される。「観光山寺づくり」に弾みとなる。



名勝及び史跡碑

「国指定名勝史跡 山寺」

宝珠山立石寺を中心とする山寺は、清和天皇の勅許をいただいた慈覚大師により、貞観二年（八六〇）に開かれたと伝えられている。

全山を構成する角礫凝灰岩は、永年の水蝕と風蝕を受けて奇岩怪石となり、これが樹木の間に見え隠れする姿は、四季折々に本当にすばらしい景観となっている。

また、境内地の参道石段は、立ち並ぶ句碑や板碑とともに苔むして、老杉や怪石の間にはたくさんさんの堂塔が建てられ、千古の静寂をたたえている。

元禄二年（一六八九）には、俳聖芭蕉が門人の河合曾良とともにこの

な山寺づくり」に光を求め続けた。
☆ 山寺は、現宮崎集会所にあった郷倉で「山寺学校」を開設し、「人づくり」に「早く取り組んだ」。

* 明治7年、現根本中堂石段西駐車場に山寺尋常小学校

* 明治37年、現やまでら館敷地に山寺尋常高等小学校

* 大正2年、新校舎増築
* 昭和22年、現サニーヒルの敷地に新制中学校を建築する。



山寺尋常高等小学校

こうした山寺の「人づくり」は、明治43年の山寺小学校の「優良小学校表彰」受賞に、さらに、山寺が誇る「四人の山寺史跡の人」（やまでら館敷地に立つ顕彰碑）、有能な方々を輩出してきた。

☆ 山寺は、山寺の振興・発展を、明治41年9月18日の東宮嘉仁親王（後の大正天皇）行啓実現に立石寺住職壬生芳田氏、師範出の伊澤栄次氏、東村山郡会議理事（千布村初代村長）今野有石氏の三氏をリーダーにして総力を結集した。

この行啓の実現で、「山寺づくり」の基盤である交通インフラ整備がスタートし、観光山寺へ「光」がさした。



山寺行啓記念殿

参詣客は、山寺への交通アクセスの整わない中、天童、山形から徒歩、人力車、馬車車での来山だった。

* 明治41年9月25日、視察に來られた馬淵県知事は、立石寺を訪問し、
・ 山寺に茶屋を設ける事
・ ホテルを建設する事
・ 山形より自動車を行らせる事などを、山寺に提案。

* 今野有石氏は、山寺ホテルの建設に着手する。

「山寺ホテルは平成27年11月、文科省『登録有形文化財』に登録」



今野有石氏

明治からの歴史を伝える大師の里 心と力を

* 昭和12年11月10日、仙山線全線開通。
* 平成26年、山寺の鉄道施設、「転車台」、「面白山トンネル」が、土木学会『選奨土木遺産』の認定を受ける。



山寺駅構内 転車台

また、仙山線の電化は、世界に誇る新幹線技術の礎となったのである。

今後、仙山線は、「仙山交流」という視点で検討されるべき価値多い観光資産ではないのか。観光山寺と仙山線との結びつきの再検討を期待したい。

* 山寺駅づくりの秘話。

「昭和8年4月12日、村長、議員村形与一郎が本日村会なりしとて戻りに来訪談。山寺停車場道路は駅より真直ぐに街道に出る様決定になりたりとの事。

小野善蔵は道路敷地を無償にて寄附するのみならず、家屋を移転し、

地訪ね、

閑さや 岩にしみ入 蟬の聲の名句を『おくのほそ道』に残している。」

☆ 昭和16年12月8日の開戦で、山寺は苦難の歩みを強いられることになった。しかし、山寺は「人づくり」を手放すことはなかった。

* 昭和23年9月、新制中学校の校舎落成、昭和24年6月、山形中央高等学校分校（夜間4年制）の設置、昭和62年4月、小中併設校を開校。

☆ 山寺は、昭和31年6月1日、荒谷地区と分村し、山形市合併へと舵をきり、山寺の振興発展を求めることになった。

☆ 今、山寺は、先人が想い描いた「山寺づくり」を阻む、深刻な課題を抱えている。

* 少子化による山寺小中学校の存続の不安

* 少子化・高齢化による人口減少、空き家の増加

* 鳥獣害が絡んだ休耕田畑の急増

* 山寺が培ってきた各種開発資源への確信不足

* 山寺の閉塞感等々。

いずれも、山寺だけでは解決のできないものばかり。だからこそ、山寺づくりの歴史に学び、さまざまな現状を見つめ、「未来に誇れる山寺」を、自信を持って語る姿の見える「元氣な山寺」にしていこう。

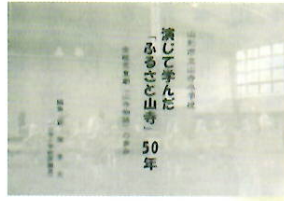
今味わう、先哲の言葉

和顔愛語
立石寺住職 清原正田

やさしい顔と温かいことばで、まわりの人に接しない。そうすれば相手の人もあなたに、やさしい顔と温かいことばを返してくれるでしょう。やがてあなたのまわりは、やさしい顔と温かいことばでいっぱいになるでしょう。そのような所を「極楽」と言うのですよ。

演じて学んだ「ふるさと山寺」出版

伝えたい「山寺の歴史」



50年演じ続けられてきた山寺小学校全校児童劇「演じて学んだふるさと山寺」を、新関孝夫氏が上梓された。
*どうして、演じ

られるようになったか
*どんな思いで演じ続けられてきたか

*50年間の秘話
等々を資料に基づき編集されている。
この著作が、今後の全校児童劇「山寺物語」の演出に弾みとなるのではと期待される。

元気な山寺!! を

武田振興会長に伺った

☆27年度の主な活動について?
・特に力を入れてきたのは「組織検討委員会」の設置である。円滑に役員の選出ができるよう規約改正案を提出し、臨時総会を開催。
次年度につなげていきたい。

☆山寺の将来について?

・一番重要なのは人口増加である。
以前より、仙山交流の強化・二口峠のトンネル化・仙山線の高速度化・休耕田への団地の誘致等が取り上げられてきた。それらの実現にあたり、山寺地区全体で一致団結し「元気な山寺」を作っていく事が急務である。
☆宝珠のしずくに思うことは?
・山寺20年の歴史を語る証言者である。さらなる継続を願っている。

表彰・受賞

- ・国土交通大臣感謝状
追分花壇愛好会
- ・山形県社会音楽祭会長賞（工藤杯）受賞
女声合唱団「ふうが」
- ・感謝状（山形市統計調査員協議会）
60年従事 布施 義彌（宮崎）
55年従事 遠藤 貞雄（馬形）
45年従事 遠藤彌右衛門（南院）
感謝状（山形市ごみ減量推進功労者）
布施 作治（地藏堂）

全国大会出場

- ・全国中学校体育大会（北海道）
柔道48級級 山寺中三年 後藤唯花（千手院）
- ・全国中学校少林寺大会個人の部（香川県）
全国少林寺大会 団体の部（京都府）
山寺中二年 後藤翼斗（馬形）
- ・全日本大学総合選手権（京都府）
卓球 東北大学 遠藤幸奈（南院）

平成27年度 振興会役員

会長	武田 忠男（南院）
副会長	伊藤 忠（中地藏）
執行役員	滝口 昇（芦沢）
	布施 敏彦（地藏堂）
	布施 秀雄（地藏堂）
	矢萩 和弘（宮崎）
	後藤 文男（芦沢）
	五十嵐秀夫（川原町）
	矢萩 昭夫（南院）
	小笠原光男（馬形）
	武田 信雄（所部）
	武田 憲士（千手院）
監事	滝口 君雄（芦沢）
	水野 徹（川原町）
やまでら館	
館長	石川 進一（中地藏）
事務局長	佐藤 正紀（中地藏）
事務員	滝口 節子（芦沢）
	武田 教子（南院）

平成二十七年の物故者

謹んでお悔やみ

申し上げます

〈千手院〉	・武田 なる殿	・後藤志記の殿
〈所部〉	・武田 タケヨ殿	・増子 琴江殿
・毛利サトエ殿	・武田 政治殿	
〈馬形〉	・安藤 安雄殿	・佐藤 勇殿
・東海林良子殿	・後藤喜久男殿	・安藤 ふみ殿
・後藤 みる殿	・後藤十寸美殿	
〈南院〉	・武田 絹子殿	・滝口つねよ殿
・堀川まさ子殿	・半澤みつ江殿	
〈芦沢〉	・堀川 邦夫殿	・山田 長七殿
・後藤 茂殿	・滝口 みよ殿	
・滝口 よし殿		
〈宮崎〉	・丹野きくの殿	・武田 さを殿
〈地藏堂〉	・布施 兵輔殿	
〈中地藏〉	・堀川マリ子殿	・鹿野 俊二殿
・大場 孝吉殿	・布施 秀雄殿	



家庭・学校・地域で 繋ぐ心

ひらく未来



昨年7月5日、
第58回山形市PTA
連合会研修
大会が山形テル



当初、「まち
づくり推進委員
会」(故)矢萩
義春会長の呼び
かけに応え、地
蔵堂地区有志で
「追分花壇愛好
会」を結成、ボ
ランティア活動

追分花壇

「つつじ苑」にバトンタッチ

山寺を訪れる方々を、「心を和ませる
花壇」でお迎えしたいとの思いで始めた
山寺地区振興会「まちづくり推進委員会」
の追分花壇植栽活動、継続20年。

継続18年。

追分花壇愛好会と「まちづくり推進委
員会」の工夫をこらした「花壇づくり」
は、国土交通大臣賞をはじめ多くの称賛
と山寺地区民・観光客のお褒めの言葉に
支えられ、植栽活動に大きな成果を挙げ
てきた。この栄光は山寺地区の大きな名
誉である。

しかし、ここ数年間の追分花壇植栽経
営の状況をつぶさに検討し、山寺地区振
興会は、「花壇植栽活動」の継続を休止
することにした。

山寺地区振興会は、今後とも「心を和
ませる山寺づくり」を堅持、山形県み
どり推進機構の支援を受けて追分花壇
を「つつじ苑」に衣替えすることを検討、
準備に当たっている。

サを主会場に、約800人の参加を得て開催
された。高楯中・高瀬小・楯山小・山寺
小中のPTAが主管校となり、山寺小中
PTAは、アトラクションと第四分科会
を担当した。

アトラクションは、山寺中学校生徒に
よる警司太鼓(17年前の研修大会でも披
露)。長年受け継がれてきた太鼓は聞く
人に感動を与え、賞賛の声が上がった。
第四分科会では三人のパネリストから
現実的な話を提供してもらい、「親と子
のかかわり方」の話し合いがもたれた。
社会の宝である子どもの存在に感謝し、
関わる全ての人の力をかりて次世代を担
う子どもを育てていきましょう!



佐藤 恒男 夫妻
アキ (川原町)



齋藤 昭夫 夫妻
和子 (中地藏)



武田 正男 夫妻
のぶ (所 部)



高木 實 夫妻
志津子 (南 院)

金婚さん

おめでとう



〈中地藏〉
・布施雄大郎氏 長女
遥愛さん



〈地藏堂〉
・布施達也氏 長女
夏音さん



〈芦沢〉
・滝口球一氏 二男
桔平さん



〈南院〉
・長岡慎弥氏 長男
凛空さん



〈千手院〉
・後藤雄一氏 二女
瑠美さん

平成二十七年生まれ

お誕生 おめでとう!!



＊しずく17号に掲載した「お誕生おめで
と」に誤りがありました。ここに訂
正させていただきます。心よりお詫び
申し上げます。
(誤) 布施 優太郎氏 長女 友希さん
(正) 布施 雄大郎氏 長男 友希さん

山寺芭蕉記念館

山寺眺望図・案内板

このたび山寺芭蕉記念館玄関前の案内板が山形千歳ライオンズクラブの寄贈により新しくなった。明治の文人「大町桂月」も驚嘆した絶景の場所に建てられた。同館からの宝珠山の眺望写真と、来県から50年になり山寺にもゆかりの深い「ライシャワー元駐日大使」の紹介もしている。

山寺文化の拠点として、来館者と観光客の尚一層の増加に役立つことが期待される。

地区民への招待茶会も毎年あるので、皆さんぜひ足を運んで下さい。



根本中堂の案内板

山形鋳物で新しく

根本中堂は立石寺の本堂として国の重要文化財に指定されている。

このたび茶道表千家同門会の寄贈により案内板が新しくなった。

案内板には貞観2年の慈覚大師の創建から今日まで千二百年にわたる東北仏教界を代表する寺院としての縁起、日本最古のブナ材建築であることや不滅の法灯等が詳細に説明されている。

この案内板は山形鋳物で造られ、重厚な銅板に浮かぶ金色の文字が重要文化財にふさわしい落着きがある。



Welcome to Yamadera



※インバウンド：海外から日本へ来る観光客を指す外来語。

対応を進めている。

昨年11月30日に「外国人観光客を地域の虜にするおもてなし講座」が山寺芭蕉記念館で開催された。

山寺の観光業者、ガイドら約30人が参加。講師に『外国人観光誘客事業』を経営している桜井亮太郎社長を迎え、山寺におけるインバウンドの現状と対策をカタカナ英会話を取り入れながら、ユーモラスに展開。

参加された方々から

「実際に外国人の方とお話するのはむずかしいが、逃げずにおもてなしの心を持って接していく事の大切さを学びました。」との声が聞かれた。

山寺観光協会では「元かんばん娘のおすすめマップ」の片面を英語版の案内図へと、おもてなしの対応を進めている。

やまでら館に新しく 設置されました



災害対応型自動販売機



太陽光発電

編集後記

宝珠のしずく20号をお届け致します。原稿をお寄せ頂きました方々に、心から感謝申し上げます。

この20号は、『山寺の誇り』を共有し、山寺をさらに輝かせたいとの願いで編集に当たりました。お読みくださり、ご意見をお寄せ頂きたくお願い致します。

渡辺印刷さん、オールカラーで仕上げて頂き、誠に有難うございました。

編集委員

新関 孝夫 ○布施 晶嗣
笹原 永吉 後藤 久
石川 進一 遠藤 まき子
佐藤 正紀